

瀬戸内タウンミーティング

平成 25 年 8 月 18 日（日曜日）

午後 2～4 時

中央公民館 1 階研修室

参加者：男性 46 人、女性：13 人 合計 59 人

【意見交換】

- ・市役所では身体障害者を雇用しているが、知的障害者や発達障害者の雇用についてはどのように考えているか。
- ・中高生のメンタルヘルス教育があるが、心の病気をもった子どもが多いと思う。地域での障害者への偏見もあるが、どのように考えているか。
- ・当事者の話をきいてほしい。

（市長）

- ・障害者雇用は積極的に取り組んでいきたい。市の障害者雇用については法定雇用率ぎりぎりであり、今後法定雇用率が引き上げられるので、障害者の仕事内容などを検討していき、雇用について考えていかなければならない。また、臨時職員の採用も市のホームページなどで募集しているので確認して欲しい。
- ・子どものメンタルヘルスについては、不登校の問題・特別支援の関係を考えたい。軽度の特別支援の方々に対する支援は、行政だけでは限界があるので、NPO など民間の方にも協力をしてもらい、ネットワークを作る必要がある。
- ・育成センターにも窓口があるので、そこからの情報も聞こうと思う。

- ・農道兼通学・生活道を、大型自動車がよく通り、がたがたしているので要望はしているが、予算の関係でまだ舗装してもらえていない。

（市長）

- ・予算の関係だが、昔よりは増やしている。また、土木委員を通じて要望してほしい。

- ・他市の例もあり、企業誘致と青少年の非行は関係があるのではないかと考えているが、瀬戸内市は企業誘致を進めていく中で、青少年の健全育成について

どう考えているか教えてほしい。

(市長)

・そういう部分もあるのかもしれないが、企業誘致以外の要因もあって非行が増えている可能性もあるので、慎重に考えなければならない。企業誘致だけをすればよいとは思っていないし、青少年の健全育成に力を入れていかなければならないとは思っている。今、小中学生の段階から地域と関わっていく仕組みをつくっていくことで、地域の人からの愛情を子どもに伝えていくということを考えている。また、子どもたちが行ける場所やエネルギーの発散場所、活躍・輝く場所をつくっていくということが課題だと思っている。

・人口問題で、転入者が増えているということだが、その転入者の中身が問題で、働き盛りではなく定年後に来ている人が多いのではないか。その辺の分析をどう考えているか。学生や老後でお金がかかる時だけ瀬戸内市にいて働き盛りの時は外に出ている人が多いが、生産人口をどう増やすが課題であると思う。現状認識をきちんとしてほしい。

・錦海塩田問題で、外国の証券会社に関わることに心配をしている。

・市民病院の問題で、お金がかかるかからないに関わらず、図書館よりも市民の健康生命を守るために、市民病院を最優先としてやってほしい。優先度を総合的に考えてしてほしい。

・南北道周辺も改善するというので、進めていったはずだが、改善されていないと思う。市としてビジョンをもって民間活力をどのようにひっぱりだせるか検討してほしい。

・障害者種別ごとの差別の克服が重要で精神障害は雇用枠がない。こういったことをよく勉強して、なにが問題で課題か問題意識をもって考えてほしい。

(市長)

・生産年齢人口の確保につなげていくためにも、働く場所・子どもの教育・医療の確保を重点的に考えたい。また、転入者の中にも高齢者や若者とか様々な方が来られているので、転入者の分析をしたうえで、戦略を立てて取り組んでいきたい。

・顧問弁護士も増強し、金融部門に精通しているところをお願いして、念には念をいれてやっていきたい。金融面は専門用語が多いのと将来への影響などリスクを考えて判断しなければならないので、慎重にしていきたい。

・図書館より市民病院を優先してほしいという意見はよく聞く。市からの持ち出しをいかにおさえた健全経営ができるか、市民に求められた医療サービスが提供できるかの両方のバランスをとるのが市民病院の非常に難しいところであ

るので時間をいただきたい。また、図書館は生命、健康などには直接は影響しないが、民間では提供ができないし、医療も教育も大切でどこかが欠けてもよくないので全体のバランスをみながら検討していきたい。

・南北道はもっと活用方法があればいいが土地の利用規制が厳しく、農業振興地域が外れない。沿線への民間の誘致はまだまだできると思う。

・障害者雇用を市全体として高めていくことがまだできていないが、いかに障害者雇用を確保するかについてハローワークや商工会とも協力してやっている。

・図書館ができた場合の予測される利用率は検討したか。ネット社会に発展している中、どれだけの人が利用するか。特に、牛窓や長船の方はどれだけの人が利用するだろうか。転入してくる条件として図書館は判断材料になるだろうか。

・バルーンフェスティバルなどのイベントがなくなった原因はなにかあるのか。

・地震津波対策について、どう考えているか。

(市長)

・20 数万人の予測はしている。図書館がある生活はできてみないとわからないが若者や幼稚園の保護者の意見など色々な人の意見を聞いてどう判断していくかが難しい。また、図書館は転入の理由にはならないかもしれないが、魅力の一つとしていきたい。色々な人に意見を聞きながら考えていきたい。

・バルーンフェスティバルは、色々なイベントの補助金を一律カットしたときに中止になり結果的にイベントが仕分けされたような形になった。市民活動補助金で復活したイベントもあるがバルーンフェスティバルは復活できていない。行政だけがするのではなく、市民の方が中心になり、市が補助するというかたちでできるのならばぜひ復活させたい。ただお客さんがくるというのではなく、市民のみなさんのものになって、誇りにつなげていくのがイベントの大切なところだと思う。時間がかかるかもしれないが復活の動きがあれば協力していきたい。

・堤防を高くする、とかに頼るのではなく、いざというときにどのような行動をとるかに力をいれて取り組んでいる。海拔表示なども重視しているが、公共事業への過信をするのではなくて、冷静な判断と適正な危機感を持っていくような取り組みをしている。地域の皆さんの取り組みに対しては、できる限り協力したい。

・新しい図書館の機能として貸し出し以外どのようなものを考えているか。

(市長)

「持ち寄り見つけ、分け合う広場」との概念で計画を考えた。学習広場としてや知りたいという悩みや問題意識の解決の場としてであったり、学んだものを他の人に伝えたりすることにより生涯学習の場を提供できたらと考えている。子どもたちに幼いころから読書をする習慣を身につけもらえたらと思う。また、地域に対する誇りや資源を知るきっかけにして文化を残していく機能にしたい。詳しくは図書館のホームページにも掲載しているのでみてほしい。

・病院は現在 11 科あり、新しくなると 110 床できるということであるが、その費用対効果と損益分岐点をどう考えているか。

・病院に勤務している人のスキルの上達はどうなっているか。

・この 4 年間での中長期計画と市長の部署に対する考え方を教えてほしい。お金がない割には大きいことをしようとしているので、こういうビジョンでしているというのを教えてほしい。

・安心安全住みよいまちづくりと掲げているが、先日の強盗の際担当課に問い合わせをしたが、把握をしていなかった。危機管理能力が低下しているのではないか。

(市長)

・入院の一人当たり 1 日の単価は現在 2 万 7~8 千円で、この単価でいくと経営が成り立たないので、一人当たりの診療単価を上げていき、目標は 3~4 万円を目指さなければならない。あわせて病床の稼働率は 90~100 床の確保が必要。新病院建設の効果としては、15%上がることを想定しているが、現状の 60 床だと厳しく、今の病院で 70 後半~80 床の状態でないと、新しい病院になっても結果的に赤字になると思う。新しい入院患者をいかに集めるかが重要で、そのためには大きな病院との連携や地域の診療所からの紹介状をいかにあげるかなどという環境をどのように作るかが重要である。分岐点を見極めながら作業をやり直している。

・自ら研修に行っているスタッフもいる。

・ビジョンについてだが、図書館や病院などを全部やめたからといって財政がよくなるわけではない。守りに入るとよくないので、市民の皆さんが暮らしやすいまちを早く作って、削るところは削るということをしなければならない。幸せの実感のまちづくりを目指しているので、医療・教育・働く場所を確保していきたい。

・今回の件に関しては、捜査上の秘密から情報がなかなかまわってこなかったため、把握できなかったが、課題であるので考えていきたい。